



いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ あ・そ・ぼ

2024年3月1日(金)～6月2日(日)

主催：ちひろ美術館 協力：株式会社ジャクエツ、大木洋平(OKIFURNITURE & DESIGN) 後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、信濃毎日新聞社、市民タイムス、abn 長野朝日放送、長野エフエム放送株式会社



グラフィックデザイン：岡崎智弘

いつでも、どこでも、

なんでもあそびに

ちひろは子どもを描き続けた画家でした。現在当館で所蔵するちひろの作品は9600点。そのなかでも最も多く描かれているのは「子ども」です。27歳(1946年)ごろより、画家として身を立て始めたちひろは、紙芝居、絵雑誌、絵童話、絵本など、数多くの子どもの本を手がけました。そうしたちひろの絵のなかには、「なんでもあそび、にする子どもの姿が描かれています。例えば、ごっこあそびやキャッチボールなど、明確にあそびとされるものはもちろん、雨の日に水たまりであそんだり(図1)、掃除の手伝いをしたり(図2)と、なにげない行為もあそびにしています。これは子どものあそびの本質的な部分で、ちひろはその特徴を的確に描いています。

母親となる前から子どもを描き、「子どもの世界が好きなので、子どものことばかり描いていたんですね*1」と語るちひろは、子どもがあそびを通じて世界を知り、探索していくことを、日々の観察のなかからとらえていたのかもしれない。

あそびの発達

本展では、ちひろの絵からあそびの発達過程を紹介します。まず、あかちゃん自分の身体をとおしてあそびます。「新聞紙で遊ぶあかちゃん」(図3)のように、身体や身のまわりの物を使ったあそびを繰り返して、自分の身体や物体について学んでいきます。次に、他者に興味を持ち、近づくけれどいっしょにはあそべない段階(並行あそび)を経て、他人と関わるあそび(社会的あそび)へと発展します。幼児期になると空想のハイシーズンを迎え、ごっこあそびや空想あそびを楽しみます。同じ年齢くらいの子どものあそべるようになると、ルールに基づくあそびをします。こういったあそびは、大人になってからのルールを守ることや道徳的な理解の基盤になると考えられています。

こうした発達段階にある子どもの姿は、育児書のカットのほか、絵本や題材の制約が少ない雑誌の表紙などにも描かれています。

子どものころ

企画協力の森口氏は、『ぼちのきたうみ』に子どものありのままの心が描かれていると語ります。

主人公・ちいちゃんは、夏休みにおぼ

企画協力 森口佑介(京都大学准教授/発達心理学、認知科学)



専門は発達心理学・発達認知神経科学。子どもを対象に、認知、社会性、脳の発達を研究する。また、保護者や子どもにかかわる仕事をしている人への講演等を通じて、子どもの発達に関する知見を広く発信している。

大人にとっては仕事が生産の中心ですが、子どもにとって生活の中心はあそびです。心理学では、子どもはあそびを楽しむことで毎日を元気に過ごすことができ、大人になる準備をしていると考えられています。また、子どもは、どんなつまらないことも、あそびにして楽しむことができます。いわさきちひろの絵は、このような子どものあそびの本質をしっかりとらえています。なにより、子どもの視点からあそびを描いているところがちひろのすばらしさです。本企画では、このようなちひろの絵を、みなさまにあそびながら見ていただきたいと思っています。

*1 「月刊ほるぷ」ほるぷ出版、1969年8月号



(図1) 黄色い傘の少女 1969年



(図2) そうじをする子ども「ひとりでできるよ」(福音館書店)より 1956年

あちゃんの家へ行くことになりましたが、愛犬のぼちを旅先へ連れていくことができません。ぼちが恋しいちいちゃんは、ぼちに宛てて手紙を書きます。この場面(図4)で、実際にちいちゃんがいるのは、部屋のなかでしょう。しかし、絵では、ちいちゃんの姿は白抜きになり、彼女が想像した夕焼けと海が画面いっぱいに描かれています。この絵について、「これは、子どもの想像が、現実を上書きしているようすを表現しているのではないかと考えられます。発達心理学では、子どもが他者の存在を想像すると、その想像された他者が現実にいるかのように子どもが知覚したり、ふるまったりすることが示されています。つまり、ちひろの絵は、子どもの想像が現実に影響を与えるという、子どもの心のあり方の本質をとらえています。」と森口氏は述べています。

ちひろは、「子どもを描いていると、自分の小さいときのことを自分で描いているという気がします*2」と語りました。主人公の名前「ちいちゃん」はちひろの幼少期の愛称です。この絵本を描くとき、ちひろは自身の子ども時代を思い起こし、そのときの心象を画面に表したのかもしれませんが。

ちひろの絵とあそび、 絵を見ることをあそびにする

展示室内に点在する plaplax 考案の新作<絵を見るための遊具>は、のぞく、くぐる、のぼるなど動作を伴って、絵を見るためのしかけがほどこされています。遊具をとおして、子どもたちがあそびながら鑑賞できる場を作り出します。2018年に「いわさきちひろ生誕100年『Life展』あそび」で plaplax が制作した<絵の具のあしあと>(図5)と<絵本を見るための遊具>(図6)も再展示



(図3) 新聞紙で遊ぶあかちゃん 1967年

するほか、新作<まどのらくがき>も登場します。<まどのらくがき>は、絵本『あめのひのおるすばん』から着想を得たインタラクティブな作品です。のびのびとちひろの世界を楽しみながら、子どもとあそびについて考える展覧会をお楽しみください。

(高津つぐみ)



(図4) 海の夕焼けと手紙をかく少女『ぼちのきたうみ』(至光社)より 1973年



(図5) plaplax 絵の具の足あと 2018年



(図6) plaplax 絵本を見るための遊具 2018年

ちひろ美術館コレクションに見る「あそび」

●2024年3月1日(金)～6月2日(日)

主催：ちひろ美術館

「あ・そ・ぼ」展に関連し、絵本の歴史をたどる資料や、世界の絵本画家たちの作品のコレクションを紹介する常設展でも、「あそび」に注目します。

長く戦乱のなかった江戸時代には、町



図1 石川豊雅 風流十二月 四月 1780年頃(安永頃)

人文化が花開き、浮世絵師が活躍しました。「風流十二月」は、12か月の行事と子どものあそびを描いた12枚組の紅摺絵です。ことろことろのようすを描いた四月(図1)のほかにも、友だちといもむしごろごろや草履隠し、ごっこあそびなどに興じる江戸の子どもたちの姿を見ることができます。江戸末期から明治半ばにかけては、尽くし絵や絵双六など、子どもが楽しめる錦絵も、おもちゃ絵として盛んにつくられました。

大正時代には、児童雑誌が次々に出版されるなか、浮世絵とは異なる子どものための絵が求められ、童画家たちが活躍しました。童話童謡雑誌「赤い鳥」の表紙絵で知られる清水良雄は、洋装のモダンな子どもたちの姿を描きました。縄を飛ばあそびは古くからありましたが、明



図2 清水良雄 なはとび 1932年

治に入って縄飛びがドイツから運動として伝わり、推奨されるようになったといえます(図2)。西洋から伝わったあそびやおもちゃは、当時の子どもたちの目に新鮮に映ったに違いありません。

絵本の文化をひも解くと、古今東西の子どもたちのあそびも見えてきます。

(上島史子)

● 活動報告

『続 窓ぎわのトットちゃん』映画「窓ぎわのトットちゃん」関連イベント 安曇野ちひろ公園 トットちゃん広場 特別展示・イベント紹介

2023年10月、黒柳徹子館長の自伝的小説『窓ぎわのトットちゃん』(講談社)の続編にあたる『続 窓ぎわのトットちゃん』が刊行され、大きな話題となりました。トットちゃんがトモエ学園で学んだ小学生時代が書かれた前編の続きで、トットちゃんが青森に疎開し、NHK所属の女優になるまでがつづられています。ちひろの「立てひぎの少年」(1970年)が表紙絵となりました。



また、八嶽新之介氏が監督を務めたアニメーション映画「窓ぎわのトットちゃん」が、12月8日(金)に全国で上映されました。映画ではトットちゃんや友だちがトモエ学園で過ごす学校生活がいねいに描かれ、安曇野ちひろ公園にある電車の教室、図書室などの施設やトットちゃんが過ごした時代を知ることができます。

トットちゃんの盛りあがりを礎に2023年の下半期はトットちゃん関連の活動に力を入れました。安曇野ちひろ美術館、安曇野ちひろ公園の活動内容を報告します。

電車の図書室とトモエの講堂にて 特別展示



『窓ぎわのトットちゃん』のエピソードを紹介するパネルを、トットちゃんへのメッセージが書かれたガーランドと共に電車の教室の窓に展示しました。冬期の開館は初めてとなる電車の図書室ですが、晴れた日の電車内はほかほかとしてあたたかく、長く読書を楽しむ方も見られました。閉館の日は展示物を外向きにし、電車に入らなくても楽しめる工夫を公園のスタッフのみなさんが考えてくださいました。

トモエの講堂には「小企画展示『窓ぎわのトットちゃん』の世界」と題し、『窓ぎわのトットちゃん』に掲載されているちひろの絵の複製画を6点展示しています。当館の休館中も、ちひろの絵を楽しんでもらえたらと考え、展示を企画しました。実際にトモエの講堂を訪れた方からは、休館中でもちひろの作品を見ることができてうれしい、という声も聞かれました。

安曇野ちひろ公園

「トットちゃんDAY」

安曇野ちひろ公園にて、窓ぎわのトットちゃんのなかに出てきたエピソードを体験できるイベントを開催しました。12月10日(日)にはヴァイオリンの演奏会とにじみのワークショップを行いました。あたたかい日差しの中、演奏会を聴き終わった方や公園に散歩に訪れた方が参加していただき、にぎわいました。

訪れた方が気軽に立ち寄れるように、ワークショップは屋外で行いました。できあがったにじみ絵がガーランドとなり、電車内に飾られます。にじみが広がると、わっと歓声が上がリ、子どもたちも楽しんでいるようでした。

今後も俳句や落語を楽しめるイベントや、電車の図書室を貸し切って自由に利用できる機会を設けたり、冬のトットちゃん広場をさまざまに楽しめる企画を計画していきます。どうぞご期待ください。(山本理乃)



ひとこと ふたこと みこと



9月22日(金)

子どもと来ました。美術館デビューはここと決めていました。絵本がたくさんあってステキでした。

10月2日(月)

私がこの美術館を訪れるのは、今回で3回目です。最初はこの美術館ができてから間もないころです。病気になった母は、自分の命が長くないとうすうす悟り、思い出づくりを必死にしているように見えました。母と二人で訪れたとき、私は24歳でしたが、あまりの人の多さに美術館の絵を楽しむ前に、人に酔ってしまったような記憶があります。でも、母は一生懸命楽しんでいました。そのときに買った小さい額入りの絵は、未だに私の手元にあり、飾ってあります。色あせて少し欠けてしまっ

ていますが、捨てることはできません。(中略)今度は、24歳の娘といっしょに訪れたいと思っています。

10月8日(日)

子どものころ、両親と訪れてから、「また行きたい」とずっと考えていました。初めての一人旅は、ちひろ美術館に行こうと決めました。ちひろの平和への思い、子どもを、命を尊ぶ心が、絵から全身に伝わってきて、大人になった今の私はなにができていだろうと現代社会を思い、涙が出てきてしまいました。子どもたちが“子ども”でいられる社会を守り、つくらないといけないと思います。戦争に反対し続けたいと思います。

10月8日(日)

絵や字を保存して、たくさんの人がこれからも楽しんで見られるよ

うにしてくださっていることは、とても良いことだと思う。

10月14日(土)

母がいわさきちひろの「子ども」の絵をよく見ている理由を考え、なんだかあたたかい気持ちになりました。

11月2日(木)

絵本が子どものころから大好きです。本・絵本は私をどこにでも連れて行ってくれます。またどの時代にも。飛行機でもあり、タイムマシンでもありますね。(とも)

11月26日(日)

久しぶりの入館です。県民デーの実施に感謝！カレンダーで慣れているつもりでしたが、美術館で拝見すると情報量が違う。絵が訴えかける“なにか”を浴びることができて、充実の鑑賞時間でした。

美術館 日記



11月11日(土) ☁

「没後50年 初山滋展 見果てぬ夢」展に関連し、ちひろと初山滋の水彩技法を体験するワークショップを開催。にじみをはじめ、絵の具を散らすスパッタリングで複雑な色味をつくったり、塩をつかったり。参加者からは、「難しかったけれど楽しかった」「いろいろな技法を知ることができて楽しかった」などの声が寄せられた。



11月18日(土) ☁

松川村に初雪が降る。公式Instagramの動画を投稿すると、「美術館のあたたかな、やさしい雰囲気は雪景色に映えますね」

など、たくさんのメッセージが。いよいよ本格的な冬がやってきた。

11月28日(火) ☁、☀

2024年開催の展覧会「あれこれいのち」。生態学者の鷺谷いづみ氏にご協力いただき、準備を進めている。ちひろの作品に描かれた野の花のなかには、近年あまり見かけなくなったものも多い。本日、鷺谷氏と美術館の中庭にちひろの絵に登場するわらびやすみれ、ききょうなどの野の花を定植し、草花を植えて「野」を再生する「共生の庭」プロジェクトがスタートした。秋には、実際に子どもたちが触られるように日々成長を見守っている。

1月1日(月) ☁、☀

能登半島地震が発生。松川村でも震度3を観測。すぐに美術館へ駆けつけた職員が収蔵棟を確認。異

常なしとの報告を受け職員みな安堵するも、能登半島の被害の大きさにことばを失う。地震で被災されたみなさまが、一日も早く、心穏やかに過ごせる日常をとり戻されることを、切に願う。

1月24日(水) ☁、☀

インドネシアの国際交流基金ジャカルタ日本文化センターで、2月に開催する展覧会「絵本：日本の子どもの本の芸術と物語の探求」(共催：国際交流基金、Yayasan Cita Cerita Anak)の事前打合せをオンラインで行う。当館のコレクション画家10名の絵本から30作品をピエゾグラフ(高精度複製画)にて展示予定。いずれも美しい絵と心に残る文章で、長く愛される絵本ばかり。インドネシアのみなさまに、日本の絵本を楽しんでもらえるよう準備を進める。

風

Vol.6

旬なできごとをピックアップしてお届けします

安曇野ちひろ美術館では、すべての子どもたちがいわさきちひろの絵に出会える機会をつくりたいとの思いから、教育普及活動の一環として、学校との連携活動に力を注いでいます。

昨年は、長野県内外から多くの学校団体が来館しました。近隣の市町村の小・中学生の遠足や校外学習の受入れも積極的に行いました。この数年、コロナ禍で叶わなかった、特別支援学校の子どもの来館も実現しました。

こうした学校団体の受入れの際には、来館の目的や学習のねらいを先生方と事前に共有したうえで、見学プランを提案しています。昨年は、絵本の読み聞かせや

ちひろの水彩技法体験、対話型鑑賞、ワークシートを活用した作品鑑賞などの教育プログラムを実施しました。また、館内での学びの時間を更に充実させるため、学校での事前学習教材として、絵本や書籍などを貸し出しています。

当館では、出前授業にも取り組んでいます。昨年は、松川小学校の他、安曇野市内の美術館、博物館と協働し、各館の作品を展示する学校ミュージアムを豊科東小学校で開催しました。子どもたちは、絵のなかの世界を自由に想像したり、気づいたことや想いを語り合ったりと熱心に鑑賞していました。

瑞々しい感性で作品と向き合い、すべてを吸収しようとする好

奇心旺盛な子どもたちとの交流を通して、芸術の可能性や美術館の役割について、多くの学びや気づきを得ることができました。

2024年は、「こどものみなさまへ」と題した特別展を開催します。この機会に、多くの子どもたちが美術館を訪れ、自由に絵を見る楽しさや表現する喜びを体験し、絵本に親しめるよう、教育プログラムの充実と学校への働きかけを続けていきます。(船本裕子)



あづみの学校ミュージアムのような

●次回展覧会予定 2024年6月8日(土)～9月1日(日)

いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ みんな なかまよ



いわさきちひろ 左 そっぽをむく少年 右 そっぽをむく少女 「となりにきたこ」(至光社)より 1970年

「みんな仲間よ」私は自分の心にいいきかせて、なつかしい、やさしい、人のこころのふるりをさがします。絵本の中にそれがちゃんとしまっているのです」

いわさきちひろは、絵本づくりに重ねてこんなことばを残しています。彼女の絵本には平和をつくるためのひみつが隠されているのかもしれませんが。ちひろの絵やことばを通して、ひとりひとりが平和を見つめれば、たくさんの答えが出てくるでしょう。

本展では、インクルーシブデザインの考え方を取り入れ、ちひろの絵を起点として、子どもから大人まであらゆる人が、ひとりひとりの個性を尊重し、ともに平和を築いていくための手がかりを探します。

安曇野ちひろ美術館 イベント予定 各イベントの予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館へ。

下記イベントおよび展覧会の会期は予告なく変更になる可能性があります。最新情報につきましては、公式サイトをご覧ください。お電話にてお問合せ下さい。

TEL.0261-62-0772 chihiro.jp

〈展覧会関連イベント〉

●あかちゃんとおでかけしよう！
ファーストミュージアムデー

- 日時：4月13日(土) 10:00～11:00
 - 参加費：無料(入館料別)
 - 定員：親子10組
 - 対象：0～2歳児と保護者
 - 申し込み：要事前予約(公式サイト/TELにて)
- あかちゃん絵本の読み聞かせや開催中の展覧会「あ・そ・ぼ」の作品鑑賞・ツアーを親子で楽しみましょう！



●ちひろとあそぼ・親子で楽しむギャラリーツアー

- 開催中の展覧会「あ・そ・ぼ」の作品鑑賞ツアーを親子でいっしょに楽しみましょう。
- 日時：4月21日(日) 11:00～12:00
- 参加費：無料(入館料別)
- 定員：親子10組
- 対象：小学生と保護者
- 申し込み：要事前予約(公式サイト/TELにて)



(図6) plaplax 絵本を見るための遊具 2018年

●ギャラリートーク

- 日時：毎月第3土曜日 14:00～14:30
 - 参加費：無料(入館料別) ○定員：20名 ○申し込み：不要
- 開催中の展覧会「あ・そ・ぼ」の見どころを学芸員がわかりやすく解説します。

●絵本のじかん

- 日時：毎月第1土曜日 11:30～12:00
 - 参加費：無料(入館料別) ○定員：20名 ○申し込み：不要
- 季節や展示にあわせた絵本の読み聞かせや手遊びをお楽しみください。

●ちいさなおはなしの会

- 日時：3月20日(水・祝) 11:00～
 - 参加費：無料(入館料別) ○定員：20名
 - 申し込み：不要(参加自由)
- 絵本カフェにて絵本の読み聞かせを楽しみましょう。

●スージー・リー講演会「物語はあなたにあり」

- 共催：松川村図書館 協力：(一社)日本国際児童図書評議会
 - 日時：3月18日(月) 18:00～19:30
 - 会場：松川村・すすの音ホール2F 研修室
 - 参加費：1000円 定員：40名
 - 申し込み：要事前予約(公式サイト/TELにて)
- 松川村図書館でもお申込みできます。



いわさきちひろの絵本にも触れながら、自作の絵本、特に「文字の無い絵本」への思いを語っていただきます。

スージー・リー (Suzy Lee) 韓国・ソウル生まれ。ソウル大学卒業後、ロンドンのキャンバーウェル芸術大学大学院で学ぶ。絵本作品はヨーロッパ、アメリカ、アジアの国々で出版され、高く評価されている。2022年国際アンデルセン賞・画家賞受賞。

●松川村民感謝デー

- 日時：3月3日(日) 10:00～17:00
- 松川村にお住まいの方に、絵本カフェのドリンクを1杯プレゼントいたします。

●長野県民感謝デー

- 日時：3月24日(日) 10:00～17:00
- 長野県にお住まいの方は入館が無料になります。
※いずれも受付でご住所のわかるものをご提示ください。
安曇野ちひろ公園では、まつかわ花咲きまつりを開催します。
9:30～15:00(予定)

●開館記念日

- 日時：4月19日(金) 10:00～17:00
- 4月19日は、ちひろの心のふるさと、信州・松川村に当館が開館して27年目の記念日です。
当日で来館の方、全員に、ポストカード(非売品)をプレゼントします。

●開館情報

- 開館時間：10:00～17:00
- ※GW(4/27～5/6)は9:00～17:00
- 休館日：水曜日(3/20は開館、翌3/21休館)
- ※GW(4/27～5/6)は無休

CONTENTS 〈展示紹介〉いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ あ・そ・ぼ…②③ / 〈展示紹介〉ちひろ美術館コレクションに見る「あそび」 / 〈活動報告〉「続 窓ぎわのトットちゃん」映画「窓ぎわのトットちゃん」関連イベント 安曇野ちひろ公園 トットちゃん広場 特別展示・イベント紹介…④ / ひとことふたことみこと / 美術館日記 / 風…⑤

美術館だより NO.113 発行2024年2月19日